

Monthly Report

Vol.75 / 2012 Jul.

かないひろのぶ

中国国費留学1期生の金井弘順さんが 東北師範大学を卒業



大学2年(平成20年)の秋から中国国費留学生として東北師範大学で現代中国文学を学んでいた金井弘順さん(明成高卒)が予定通り4年間で卒業要件を満たし、7月1日に東北師範大学を卒業しました。中国国費留学ではこれまで東北師範大学大学院を修了した日野晃希さん(平成23年7月修了)、上海体育学院大学院を修了した笹井善仁さん(平成24年1月修了)がありますが、学部生としては初めての卒業生となりました。

金井さんは留学中も遠隔授業により本学の単位取得を並行して行ってきたため、本学の卒業に必要な単位は年度内に取得できる目途が立っており、来年3月の卒業が見込まれています。しかし、本学入学当初に金井さんが取得を志望していた栄養士免許と保健体育(中学・高校)免許の取得については、実習や実験があるため取得できておらず、卒業した後、科目等履修生として単位取得に励むそうです。

4年間の国費留学では、多くの人に出会い、良き先輩に指導され、人として大きく成長できたと感じているようです。また、留学中に遠隔授業等でお世話になった先生方への感謝の念も話していました。今後は勉強と共に中国語を生かせる企業を志望し、就職活動をしていくそうです。

目次

中国国費留学1期生の金井弘順さんが東北師範大卒業	1
名誉教授称号授与式 朴澤学長が美深町訪問	2
夏季巡回ラジオ体操 みやぎ県民大学	3
仙台大学入試懇談会 「なちゅら」看板設置	4
学科一日体験会 海外外武道実習	5
KMCH使用について 仙台大学はただ今 節電中	11
学生の活躍	12

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@sendai-u.ac.jp

名誉教授称号授与式



7月10日（火）に学長室において阿部武彦先生（平成22年度退任）と宍戸勇先生（平成23年度退任）の名誉教授称号授与式が執り行われ、佐藤宏専務理事はじめ副学長、学科長が列席する中、朴澤学長から名誉教授の称号が贈られました。朴澤学長より「長年にわたってご活躍いただきありがとうございます。今後も大学運営の面でご指導いただきたい。」と話されました。

授与式の後にはA棟大会議室において食事が行われ、その席でお二方よりご挨拶いただきました。

阿部武彦先生からは「仙台大学には長い間お世話になりました。称号を賜りまして本当にうれしく思っております。今後もよろしく願います」

と話され、宍戸勇先生は「同窓生とは現在も縁があるので、今後も同窓生を通じて仙台大学をアピールしていきたい。」と話されました。

お二方には今年度も非常勤講師として教鞭を執っていただいております。これからも大学のためにご尽力いただきます。

※名誉教授の称号は（1）本学教授として15年以上勤務し、教育上または学術上、功労のあった方。（2）前号の年数には達しないが、本学教授として教育上または学術上、特に功績が顕著であった方。（3）学長として、特に功績が顕著であった方。に与えられます。

朴澤学長が北海道美深町を訪問し感謝の盾を寄贈



※写真提供：OB前田研吾さん

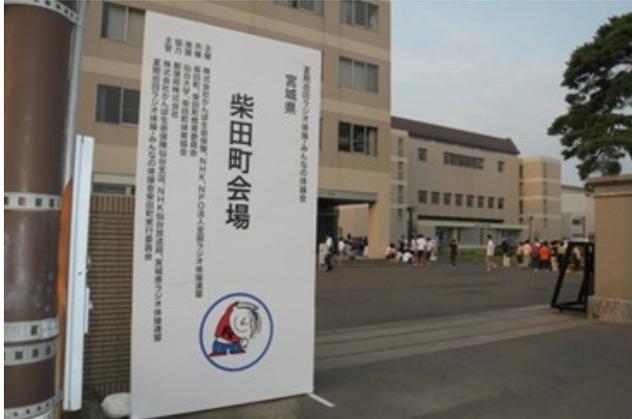
朴澤学長が7月17日(火)に、東日本大震災で被災した際に義援金支援をしていただいた北海道美深町を訪問し、山口信夫町長に「東日本大震災被災時、多くのお見舞い、激励をいただき感謝しています」との思いを述べ、震災復興の意思を込め

た岩手県陸前高田市「一本松」の写真入り盾を寄贈しました。

美深町と本学は2007年に相互協力協定を結び、スポーツ振興を目的に子供たちの体力向上やタレント発掘活動を展開しています。日常的に取り組むため、スポーツクラブ指導員として毎年大学院生1名を常駐派遣しています。現在は大学院2年の大町祐太さんが常駐し、一昨年派遣の後、同町職員に正規採用となった前田研吾さん（平成20年度卒業、22年度修了）と共に活動しています。今回の訪問の際にも、前田さんと大町さんがスケジュールの調整及び案内役を務めてくれました。

なお、朴澤学長の美深町訪問は、地元3紙(北海道新聞、北都新聞、名寄新聞)で紹介されました。

仙台大学を会場にラジオ体操 「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を実施



7月29日（日）、本学グラウンド（陸上競技場）を会場に「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会（主催：(株)かんぼ生命保険、NHK他）」が開催され、午前6時30分 - 6時40分の10分間「NHKラジオ第1」で全国放送されました。柴田町から約2,000人の参加があり、本学からも留学生やサークル（硬式野球部・サッカー部・柔道部・漕艇部・新体操競技部・男女バスケットボール部・女子バレーボール部など）、教職員が参加し

ました。

放送には名川太郎氏のピアノ伴奏と体操指導の西川佳克氏の声の主となりますが、会場も一体となり、「いち、に、さん、し」という大きな発声で全国にみなぎる元気を送りました。なお、柴田町のイメージキャラクター「はなみちゃん」も参加し、会場を盛り上げていました。

平成24年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座

～テーマ「武道から学ぶ安全・安心」～



7月の毎週火曜日（18時～20時）、「平成24年度みやぎ県民大学 仙台大学開放講座」を開講し、66名の方々に受講いただきました。今年は現代武道学科の先生方はじめて講師を務め、「武道から学ぶ安全・安心」をテーマに、武道の応用による社会の安全・安心の実現について講義を行いました。

第1回講座 7月10日

「日本の伝統文化としての武道」
齋藤浩二教授

第2回講座 7月17日

「日本における社会の安全・安心」
—犯罪から身を守る その1—
飯塚公良夫准教授

第3回講座 7月24日

「日本の護衛について」
—皇室の護衛経験から—
伊藤重孝教授

第4回講座 7月31日

「日本における社会の安全・安心」
—犯罪から身を守る その2—
田中智仁講師

仙台大学入試懇談会

◇毎年開催の仙台会場



※写真提供：入澤助教

6月29日（金）仙台ガーデンパレスを会場に、仙台大学入試懇談会（平成25年度入学試験説明会）を開催しました。東北6県及び栃木県より、同懇談会開催以来最も多い98高校102名の進路指導担当教員の方々に出席いただきました。この結

果は、高校側の本学への関心の高さとともに、入試創職部の営業努力の一つと言えます。

冒頭の朴澤学長の挨拶では、文部科学省の大学改革実行プランや仙台大学の専門教養教育の概要に触れ、本学の人材育成の取り組み等について説明を行いました。次に、鈴木省三副学長より仙台大学の強みである実践教育や競技力の育成、宮城県の教員採用試験の結果、新入生の就職志望動向などについて説明がされました。各学科長より学科の特徴・教育目標・進路等について1分間スピーチした後、渡辺入試担当課長より平成24年度入試結果及び平成25年度の入学試験の内容について詳細な説明を行いました。

同懇談会終了後には別室で個別相談会を行い、73校75名の進路指導担当教員が相談に来られ、特に指定校推薦枠に関する要望が多数寄せられたようです。

◇北海道の2会場での初開催～北海道同窓生教員向け入試懇談会

7月14日（土）、15日（日）に北海道同窓生教員向け「入試懇談会」を北海道で初めて開催し、朴澤学長、丸山副学長、藤井（邦）教授、渡辺入試担当課長が2会場を回って本学OB教員に協力を仰ぎました。北海道ではここ数年で保健体育教員免許取得可能な学科を有する私立大学が増えてきており、本学への進学は減少傾向にあります。しかし、本学OB教員約80名が道内の高校で活躍しているなど「伝統」と「実績」では本学が勝っており、努力次第では志願者数を保つことが可能と考えられます。

14日（土）の札幌会場（ホテルポールスター札幌）には24名、15日に帯広会場（ホテル帯広東急イン）には15名の本学OB教員に参加いただきました。仙台大学の教育方針や特徴、北海道からの志願状況などを説明した後、大学側と本学OB教員との意見交換がなされ、本学OB教員から貴重な意見や要望を聞くことができ、双方にとって大変有意義な会となりました。意見交換後、懇親会を開催し、相互の連携、親睦及び交流を図ることができたようです。

学生食堂「なちゅら」看板設置



「なちゅら」を命名した成澤舞さん
（運動栄養学科2年／酒田西高卒）

学生食堂の愛称に決まった「なちゅら」のロゴ看板が7月20日（金）に設置されました。看板設置は3カ所で、道路側入り口、食券売機の上、学

食カウンター柱の3カ所です。

7月22日（月）からは学生食堂を委託しているシダックス（株）から名前にちなんだ「なちゅら生パスタ」が期間限定で販売されています。

これからは「学食」や「学生食堂」ではなく「なちゅら」と呼称ください。



学科一日体験会を実施



※写真提供：菊地志織新助手

7月7日（土）に体育学科とスポーツ情報マスメディア学科、8日（日）に健康福祉学科、14日（土）に運動栄養学科と現代武道学科の「学科一日体験会」が実施され、3日間延べ人数351名（生徒262名、保護者89名）に会場いただきました。体験会では各学科の教育や特徴を理解してもらうための講義や実習を用意し、開催目的である「高校生に大学の中身をもっと知ってもらい、納得のい

く大学選びをしてもらう」が実践できたのではないのでしょうか。8月4日（土）にはオープンキャンパスが企画されています。引き続き盛会裏に終わるよう結束して頑張りましょう。

【参加実績】

7月7日（土）

・体育学科&スポーツ情報マスメディア学科
参加者193名（生徒：144名 同伴者：49名）

7月8日（日）

・健康福祉学科
参加者73名（生徒：52名 同伴者：21名）

7月14日（土）

・運動栄養学科
参加者64名（生徒：50名 同伴者：14名）

・現代武道学科

参加者21名（生徒：16名 同伴者：5名）

現代武道学科 初の海外武道実習を実施



写真提供：中鉢職員（現代武道学科事務担当）

昨年4月に開設した現代武道学科が6月25－30日の日程で初の「海外武道実習」を実施しました。「海外武道実習」は2学年の発展科目で、海外における武道教育に関する学習体験の場として、本学と国際交流協定を締結している韓国・中国の大学を中心に日本の武道、韓国伝統武道、中国武術の理論・実技の実践と武道を通じての護衛や社会の安全・安心の確保の方策について学習することを目的としています。今年度は2010年に国際交流協定を結んだ韓国・龍仁大学で実施し、学生24名と現代武道学科の教職員3名（斎藤浩二学科長、田中智仁講師、中鉢芳尚事務担当）が参加しました。韓国には徴兵制度があることもあり先進的な

警護教育が実践されています。龍仁大学も警護学科を設置しており、実習では警護理論や消防安全教育などの講義と、テコンドーや柔・剣道の実技を習得した他、同大学の学生と交流しました。また、ソウル市警察や大統領警護処の視察を行い、日本では体験することができない射撃実習（実弾不使用）の機会を与えて頂くなど、警備・警護が学問領域として確立している韓国で実践を学ぶことができ、たいへん有意義な実習となりました。

スペシャルオリンピックス日本・宮城 テニスプログラム2012 in仙台大学



スペシャルオリンピックス (SO) とは、知的障がいのある人々を対象に、年間を通したオリンピック形式による日常的なスポーツトレーニングプログラムの提供と、その成果を発表する場として地区大会～世界大会に至るまでの規模の異なる競技会を開催することで、彼ら彼女らの自立と社会参加の促進を支援する国際的なスポーツ組織です。

私が本学に赴任した翌年の平成8年以降、SO日本・宮城のテニスプログラムを本学テニスコートで毎年実施してきました。昨年は震災の関係で実施できませんでしたが、今年は4月8日～6月30日まで毎週土曜日の午前10:00-12:00の2時間、テニスコート及びハンドボールコートを使用して実施しました。9回目にあたる最終回は、8回の練習成果



を発表する場として位置づき、技術レベルに応じた個人技能、あるいはノーアドバンテージ方式のシングルス・ダブルスなどの競技が展開されました。この競技会の結果は、全国大会出場の鍵を握る記録となります。

コーチはヘッドを仲野が、サブヘッドを社会人の方が、そしてプログラムマネジャーを健康福祉学科の後藤先生が担当しています。その他のコーチスタッフは、硬式テニス部の部員が中心となっています。アスリートの中には平成8年以降毎年参加している男性、また、昨年アテネで開催されたSO世界大会に参加し、金メダルを獲得して帰国した女性もいます。年齢も最少は9歳、最年長は38歳と幅広いアスリートが参加しますので、コーチも幅広い年齢層のコーチが求められます。障害者スポーツに興味がある本学学生には、ボランティアコーチとして活動に参加してほしいと願っています。ちなみに、SO日本・宮城ではテニスも含め、現在13種目のスポーツプログラムが展開されています。

夏季種目：①陸上、②サッカー、③体操、④水泳、⑤テニス、⑥バレーボール、⑦バスケットボール、⑧卓球、⑨ボウリング、⑩ボッチャ
冬季種目：①アルペンスキー、②フィギュアスキー、③フロアーホッケー

3年後の夏季世界大会は、アメリカのロサンゼルスで開催されることになっています。私も選手団の一員（コーチもしくは役員）として参加しようかと考えているところです。

<体育学科長 仲野 隆士>

第2回 宮城県新規採用教員激励会



※写真提供：押切臨時職員

7月28日（土）に宮城県・仙台市の教員として今年度新規採用された卒業生22名を祝う「第2回宮城県新規採用教員激励会」がKKRホテル仙台で開催さ

れました。昨年は「校長職就任祝賀会」と同時開催されましたが、本年は校長職への就任がなかったため、「新規採用教員激励会」単独での開催となりました。会には元仙台市教育長で本学園理事の阿部芳吉先生や元宮城県中学校校長会長で前本学教授の佐伯洋昌先生、本学OB教諭、本学園の教職員など51名が参加して、見事難関を突破して新任教員となった先生方を祝いました。

採用教員の挨拶ではそれぞれの思いが話され、七郷中学校の熊谷篤先生は「七郷中学校には仙台大学OBが私を含め3名いるので心強く仕事させていただいております。まだ着任して数ヶ月ですが、教育の現場には様々な壁があります。今日は諸先輩方がたくさんいらっしゃいますので、色々とお話を聞かせて頂き、今後の仕事に生かしていきたい」と話されました。

台東大学から3名の短期交換留学生



7月2日ー8月2日、短期交換留学プログラムで
ファン チンジェン リン ショウイン
 台東大学から黄 靖娟さん、林 秀榮さん、
チョウ チリン
 邱 琦玲さんの3名が本学で学んでいます。体
 操・ダンス・柔道などの実技を中心に受講した
 他、日本文化体験として阿部武彦名誉教授が華
 道と茶道の体験や、宮城県内の見学などしまし
 た。また、健康づくり支援センターで行うエコ
 ノミークラス症候群予防運動指導に同行して女
 川町で被災した方々と交流しました。

韓国体育大学校女子柔道部が本学で強化合宿開催



7月3ー13日の日程で、国際交流協定を締結し
 ている韓国体育大学校から女子柔道部員11名と
 チョン・ソンテ監督が来学し、本学柔道部員と
 の合同強化合宿を開催しました。この合宿は
 2009年から互いの大学で毎年開催しており、本
 学での開催は3度目です。今回も相互に技術向上
 ができ充実した合宿となったようです。

台東大学留学生・韓国体育大学校柔道部合同ウェルカムパーティー



7月6日（金）に「台東大学短期留学生・韓国
 体育大学校柔道部合同ウェルカムパーティー」
 を学生食堂で開催し、教職員・学生・留学生あ
 わせて約80名の参加がありました。会に先立ち
 朴澤学長から「短期間ではありますが、それぞ
 れの目的を果たしてもらうと同時に、仙台大学
 の学生や日本との交流を大事にしていきたい」
 と挨拶がありました。その後、台東大学から
 の留学生が登壇し、流暢に日本語で自己紹介
 を行い、名前や台東大学で所属している学科な
 どを説明しました。次に韓国体育大学校柔道部
 員が登壇し、代表してチョン・ソンテ監督が
 「私たちは仙台大学の学生がオリンピックで金
 メダルを獲得まで大学に来続けます。共に頑張
 りましょう」と挨拶し、会場を沸かせました。

New Face ～新任者紹介～

地域健康づくり支援センター業務担当新助手の齋藤まりさん

《プロフィール》

宮城県出身。仙台大学運動栄養学科卒業後に青年海外協力隊としてマレーシアに渡り、2年間ボランティア活動を行う。現地では州の社会福祉局に配属され、地域に根差したリハビリテーション（CBR）をコンセプトに障がい者が通うセンターを巡回し、体を動かす機会の少ない利用者に対して、運動教室やスポーツ大会の開催を行った。

《有資格》

栄養士、栄養教諭二種、レクリエーションコーディネーター、ジュニアスポーツ指導員

《教職員、学生のみなさまに向けて》

無事にマレーシアでのボランティア活動を終え、6月末に帰国しました。新助手として、仙台大学に戻ることができたこと、とても嬉しく思います。周りのみなさんに助けていただきながら、責任をもって職務に励みたいと思います。また、運動栄養学科の卒業生として、栄養の視点からも地域の健康づくりのサポートをしていきたいです。みなさん気軽に声をかけてください！



ドイツ留学中の郷野 茂さんからの便り



こんにちは。私は現在、ドイツ北西部ニーダーザクセン州にあるカール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルク(オルデンプルク大学)に仙台大学からの交換留学生として在籍しています。3月初旬にドイツに来て、早4ヶ月が経ち、夏学期(日本でいう前期)を修了しました。ドイツは湿度の上がらない過ごしやすい夏を迎えています。

大学には様々な国から留学生が来ているので、外国人のためのドイツ語教室が充実しています。レベルが細かく分けられ多くのドイツ語講座が開かれています。私も週二回これに参加しました。去年の10月頃から小松先生に教えて頂いていましたが、ドイツに来た当初は、相手の話していることが聞き取れず、自分の言いたいことも言えないという状況で大変苦勞しました。今でも苦勞はありますが、時が経つにつれて耳が慣れてきたの

と、このドイツ語講座のおかげで少しずつ力はついていると思います。

大学では人間社会学部体育学科に所属しているので、スポーツ社会学に関する講義やスポーツ医学などの講義にも出席しています。当然のことながらすべてドイツ語で進められるのですが、普段の日常会話より難しい言葉が多く使われるので、正直なところ内容をあまり理解することができませんでした。しかし講義に出て驚いたのは、学生がプレゼンや討論、質問に全くためらいが無く、堂々としているということです。もし自分ももっとドイツ語ができればこれに参加できるのにと悔しい思いをしたので夏休みの間スキルアップに努めたいと思います。

オルデンプルクはあまり大きな町ではありませんが、中心部にはたくさんのお店や飲食店が立ち並び、郊外住宅地は閑静でとても住みやすい町です。残り約7ヶ月間、この町で勉強面でも生活面でも大いに楽しみたいと思っています。

郷野 茂



大学の外観

みなみたかのり

エアリアルで2014年ソチ冬季オリンピックを目指す南隆徳さん



主な成績

2009-10シーズン		
・冬季全日本選手権大会		優勝
2010-11シーズン		
・ワールドカップ カナダ・カルガリー		18位
・ノースアメリカンカップ カナダ・カルガリー		8位
2011-12シーズン		
・ワールドカップ カナダ・カルガリー		15位

今年4月に大学院に入学した南隆徳さん（北翔大卒）は、エアリアル（スキー・フリースタイル競技の一つ）の強化指定を受けており、2014年ソチ冬季オリンピック出場が期待されている選手です。南さんは北海道美深町の出身で、本学が提携する同町が進めるタレント発掘事業が輩出した選手です。競技終了後のキャリア、特にスポーツを通じての地域への貢献を視野に入れて本学への進学を決意。本学大学院「スポーツキャリア大学院プログラム（文部科学省委託事業）」の受け入れ第一号アスリートとして入学しました。南さんはソチ冬季オリンピック出場の目標を達成するために長期履修学生制度を使い、4年間での修了を予定しています。

《南隆徳さんインタビュー》

・エアリアルを始めた時期は？

高校2年からです。6歳からトランポリン競技を行っていましたが、高校2年の時にスキーの授業でエアリアルの全日本代表選手の合宿を見学したのがきっかけとなりました。トランポリンとエアリアルは競技特性が似ていることから種目転向する人も多く、私もスムーズに転向することができました。

・エアリアルの魅力は？

エアリアルの魅力はズバ抜けた高さでの中回りや捻りのダイナミックさです。ジャンプ台の規格は最大4メートル、進入スピードは約60キロ、着地点の角度は約40度と、急角度、急スピードの正にエクストリームスポーツです。しかし、エアリアル界は世界的にも競技人口が減少しています。小さな好奇心からでも良いのでエアリアルを皆さんに知ってもらいたいです。

・競技に関する目標は？

ソチオリンピックへの戦いはすでに始まっており、夏の海外遠征が8月上旬から10月上旬まであり、冬には海外ツアーが待っています。ワールドカップという大舞台に全戦出場し、そこで決勝ラウンド進出を果たすことにより経験値を上げ、オ

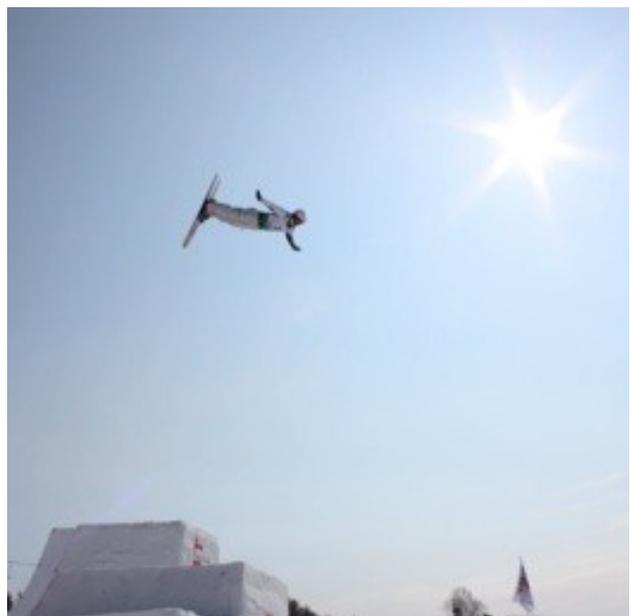
リンピックに向けて良いスタートダッシュを切れるように最善を尽くしたいです。

・仙台大学大学院での目標は？

現在、日本のトップコーチやアスリートには次のステップに向けて、将来に備えて準備を進めていくことがとても重要だといわれています。仙台大学大学院では、競技活動を継続しながらも、競技終了後に足踏みをせず、即現場帰、情報共有できるように知識を深め、将来、地域スポーツ事業の促進に繋げていきたいと考えています。

・ソチ冬季オリンピック出場権獲得に向けて

選手一人の力ではオリンピックという大舞台に立つことは叶いません。それを可能にするのは選手自身の努力はもちろん、応援・支持してくれる方々がいて下さってこそ成り立つものです。オリンピック出場に向けてより一層の覚悟を持って競技に取り組んでいきますので応援よろしくお願いします。



※写真提供：大町祐太さん（大学院2年）

KMCHの使用についてサッカー部 部長・監督・コーチが学生に見本を示す



クラブハウス（KMCH）はサークルによる自主的な管理が謳われており、清掃もサークルの持ち回りで担当することとなっております。この度、更衣室・シャワー室の清掃当番に当たっていたサッカー部が清掃を実施せず、またKMCH管理者からの催促後も改善がみられなかったことから、シャワー室利用禁止等のペナルティが課されました。

サッカー部ではこの事態を重く受け止め、部長の朴澤学長、監督の吉井講師、コーチで臨時職員の伊勢裕介さんと和泉隼さんの4名が「自分たちが部員に見本を示そう」と、7月20日（金）に男子更衣室の清掃を行いました。清掃終了後、KMCHを管理する吉田清担当課長に清掃終了の報告と、部員たちの意識改善に努めることが約束されました。

なお、写真は清掃の様子はKMCHとサッカー・ラグビー場のクラブハウスに掲示しております。

仙台大学はただ今 節電中

今夏は東北電力管内の節電数値目標(7月2日～9月28日)はありませんが、本学では被災地であるからこそ積極的に節電対策に取り組むべきとの認識に立ち、昨年と同様に節電を実施しています。昨年は節電目標765 kWを達成しており、これを鑑み、本学は今年の最大契約電力を750kWで結んでいます。この数値を超えると電気料金のペナルティーが科せられることから今年度は700 kWを目標数値とし、節電に取り組んでいます。学生・教職員の皆さんにも節電へのご理解とご協力をお願いいたします。



[具体策]

1. こまめな消灯
2. エアコン設定温度28度
3. 廊下・体育館照明の間引き



2012年7月1日(日)～2012年7月31日(火)																															
電力量	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
デマンド[kW]	231.4	462.2	466.7	481.9	473.2	483.7	427.7	268.7	470.1	501.4	534.2	520.5	541.2	392	226.6	285.1	563.9	540.1	527.7	479	384.5	244.1	482.2	531.9	557.9	599.4	560	399.5	327.8	658	144.5
1日[kWh]	3861	6121	6438	6602	6945	7342	5519	3756	6380	7223	7873	7619	7801	5213	3674	4190	7517	7714	7536	6842	5493	4028	6326	7614	7520	8447	8250	5466	4961	9156	414
積算[千kWh]	3.9	10	16.4	23	30	37.3	42.8	46.6	53	60.2	68.1	75.7	83.5	88.7	92.4	96.6	104.1	111.8	119.3	126.2	131.7	135.7	142	149.6	157.1	165.6	173.8	179.3	184.3	193.4	193.8

皆様のご協力により、今年度の最大電力は、7月30日に記録した658kWです。

レクリエーション部の大郷小学校「花山合宿」支援

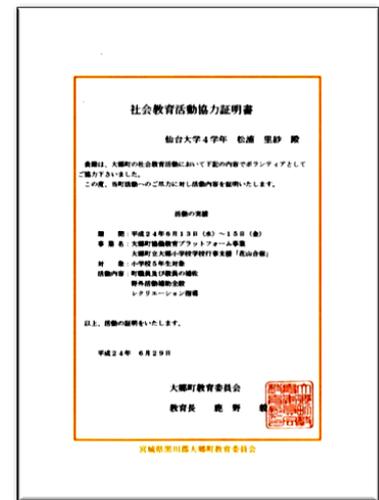


※写真提供：レクリエーション部

松浦里紗さん（福島西高卒）

合宿中は子供たちと同じ目線に立つことと、みんなが楽しく過ごせることを心掛けて行動しました。私は一昨年もこの合宿に参加していますが、その時は先輩に頼ってばかりで全体に目を配る余裕がなく、仕事をこなすだけでした。しかし、今回は全体を広く見渡しながらか子供たちと接することができ、自分も小学生に戻った感覚で一緒に楽しむことができました。これは日頃のレクリエーション部の活動が自分を成長させてくれているのだと感じています。レク部の活動は児童館で小さい子の遊び相手や、高齢者レク、親子活動、障害者更生施設での活動、祭り補助、自然の家での活動、スポーツフェスティバルなど、接する人の年齢層の幅が広いため、人との接し方や集団行動などたくさんのが学べます。今回の合宿でも先生と生徒の間に入ること、利用者・参加者との間に入るときにどのようなことに注意すべきかなどの点で勉強になりました。

大郷町教育委員会が実施する大郷町立大郷小学校5年生を対象にした「国立花山青少年自然の家での宿泊体験会（通称：花山合宿）」が6月13-15日に行われ、レクリエーション部の松浦里紗さん（健福4年）、松田真実さん（健福3年）、水澤俊英さん（健福2年）の3名がボランティアとして合宿を補助しました。この合宿は2009年から大郷町内の小学校を対象に毎年実施されている行事で、ハイキングや野外炊飯、キャンプファイヤーなどの集団生活を介し、「互いを思いやる気持ち」、「助け合いの心」、「自ら進んで行動する力」などを養うために実施されています。今年4月に大郷町内にあった4つの小学校は統合され、大郷小学校として再出発し、児童68名と小学校教諭5名、大郷町教育委員会職員2名が参加しました。レクリエーション部は第1回開催から3~5名が毎年支援で帯同しており、今年も町職員及び教員の補佐、野外活動補助、レクリエーション指導等の役割を全うしました。



女子サッカー部が月1度 ゴミ拾い活動を実施



7月20日（金）の16時30分-18時までの1時間半にわたり女子サッカー部員が大学周辺の町内のゴミ拾いを行いました。これは地域に愛され応援されるサークルになることを目指す女子サッカー部が、平成23年5月から月1度行っている活動です。大学正門からサッカー・ラグビー場方面、船岡駅方面、船岡城址方面の3グループに別れ、4号線を通り、大学正面に出てくるルートで行われています。ゴミだけでなく路上に生えた雑草の除去も同

時に行っており、毎回4、5袋分のゴミ・雑草が集められています。

主将の山田綾さん（運動栄養学科3年）



ゴミ拾いをしていると地域の方から「ありがとう」や「ご苦労さま」と声をかけてもらい、交流が持てるようになりました。ゴミは大学周辺に多く落ちていて、特にタバコの吸い殻やビニール袋が多いです。大学内で吸えないので外で吸うのは仕方ないとは思いますが、一人ひとりが常識を持った行動が問われるのではないかと思います。

こいでみく

トライアスロン期待の新星 小出未来さん



トライアスロン部の小出未来さん（健康福祉学科2年／北海道別海高校卒）が7月1日（日）に那須塩原で行われたインカレ予選「2012東北学生トライアスロン選手権」で初優勝しました。トライアスロン競技をはじめてわずか1年での東北学生チャンピオンで、9月に香川県で開催されるインカレでの活躍が期待されます。

小出さんは中学までスピードスケートに打ち込んでいました。北海道の代表として海外遠征の経験もあるくらいの実力だったそうです。その練習の一環で行っていたバイク（自転車）練習が好きだったことと、高校では陸上競技部に所属していたほど走ることも好きで、その2種目が入っているトライアスロンに興味を持ち、入学後迷うことなくトライアスロン部に入部したそうです。しかし、スイムは授業で経験した程度の実力だったらしく、最初は恐怖心があったそうです。さらに小出さんが入部した2011年5月は震災の影響で大学のプールが使用不能となり、部が練習で利用していた亘理町の海岸も津波被害により立ち入りできない状況になったことで、隣市の角田市営プールでの練習を余儀なくされました。不便な状況で、思うようなスイム練習はできなかったのですが、この困難な中でもできる事を積み重ね、「頑張れば何とかなる」「自分にはできるはず」と言い聞かせ続け、苦手のスイムを少しずつ少しずつ克服したそうです。

昨年のインカレでは、スイムで制限時間を切ることができずに無念の途中棄権となりました。スイム自体の練習不足の他、波や潮流への対応など、海でのスイム練習ができなかったことも響いた結果でした。

それから1年。震災で被災した道路も徐々に修繕され、少しずつロードで好きなバイクやランの練習も行えるようになりました。またスイムも、練習環境はさほど変わらない中で可能な限りの練習を積み、何レースかの大会経験も経た結果、1.5kmのスイムだけで1年間で10分以上も記録を縮めるほど成長しました。「インカレでは自己記録更新と15位以内を目指します。」と笑って話す小出さんですが、当面、『スイムを制限時間内にフィニッシュし、レースを完走する。』ことが今年の目標になりそうです。

「ゴールした時の、言い表せないほどの達成感がトライアスロンの魅力。」と話す小出さん。東北の女王として、9月2日、自身2度目のインカレに挑みます。



<東北予選会結果>

[男子]

7位 佐藤光希
9位 佐藤京太郎
14位 佐藤秀樹

[女子]

1位 小出未来
4位 寺川 葵

Futsal部4名が宮城県選抜として全国大会に



※写真提供：笹生講師

7月28、29日、石巻総合体育館において「全国選抜フットサル東北大会」が開催されました。フットサルは国体種目ではありませんが、この大会はいわば国体に相当する大会です。東北6県か

ら選抜チームが集結し、9月15-17日に北海道・札幌市で行われる「第28回全国選抜フットサル大会」への出場をかけて熱戦が繰り広げられました。本学Futsal部からも宮城県選抜チームの選手として笹生心太講師、諏訪徹さん（体育4年）、加賀光太郎さん（健康福祉4年生）、古川貴仁さん（体育2年）の4名が選出されました。宮城県選抜は予選ブロックで山形県・福島県選抜に勝利、決勝でも岩手県選抜に11対2で勝利し、全国大会の切符をつかみました。大会には本学Futsal部員も応援に駆け付け、会場を盛り上げたようです。

詳しい結果は、専門のサイトをご覧ください。
<http://mf10.jp/futsal/modules/news/index.php?page=article&storyid=2702>